

2015年5月21日  
日興アセットマネジメント株式会社

**「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド  
・円コース／・資源国3通貨コース／・ブラジルリアルコース」  
2015年5月20日決算のお知らせ**

平素は、弊社の投資信託に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、弊社が運用しております「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド」の各コースにつきまして、2015年5月20日に決算を行ないました。

今回の決算において、ファンドのインカム水準や基準価額水準、ファンドを取り巻く市況動向などを総合的に勘案し、**「円コース」の分配金を50円(税引前、1万口当たり)に、「資源国3通貨コース」の分配金を70円(同)に、「ブラジルリアルコース」の分配金を80円(同)に見直すことといたしました。**

当レポートの3ページ目以降で、今回の分配金額見直しの背景と、今後の見通しなどについてご説明申し上げますので、ご一読いただければ幸いです。

今後とも、「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド」の各コースをご愛顧賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

	円コース	資源国 3通貨コース	ブラジル リアルコース
今回(2015年5月)の分配金	50円	70円	80円
前回(2015年4月)の分配金	60円	100円	110円
設定来の分配金合計 2015年5月20日現在	3,170円	5,930円	7,170円
基準価額(税引前分配金控除後) 2015年5月20日現在	7,647円	5,745円	4,008円

- 分配金は税引前、1万口当たりの値です。
- 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
- 毎決算時に、分配金額は、委託会社が決定するものとし、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。ただし、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や、分配を行わない場合もあります。
- 「原則として、安定した分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移することなどを示唆するものではありません。  
また、基準価額の水準、運用の状況などによっては安定した分配とならない場合があることにご留意ください。

上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様様に「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・円コース／・資源国3通貨コース／・ブラジルリアルコース」および「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネープールファンド)」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

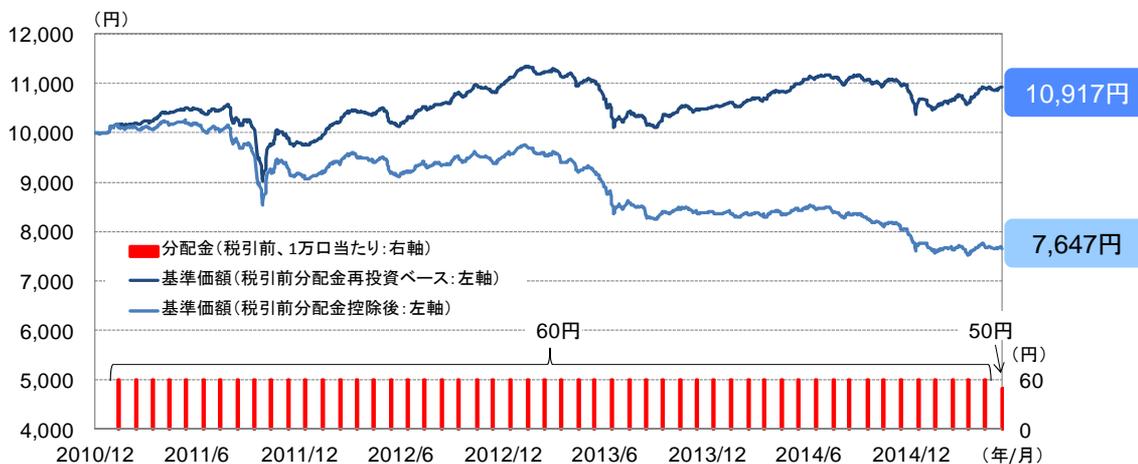
＜ご参考＞各コースの基準価額と分配金の推移  
(2010年12月9日(設定日)～2015年5月20日)

円コース

＜基準価額の騰落率＞

前月末比	0.1%
3カ月前月末比	3.3%
6カ月前月末比	-1.5%
1年前月末比	0.8%
設定来	9.2%

※基準価額は税引前分配金再投資ベースを使用

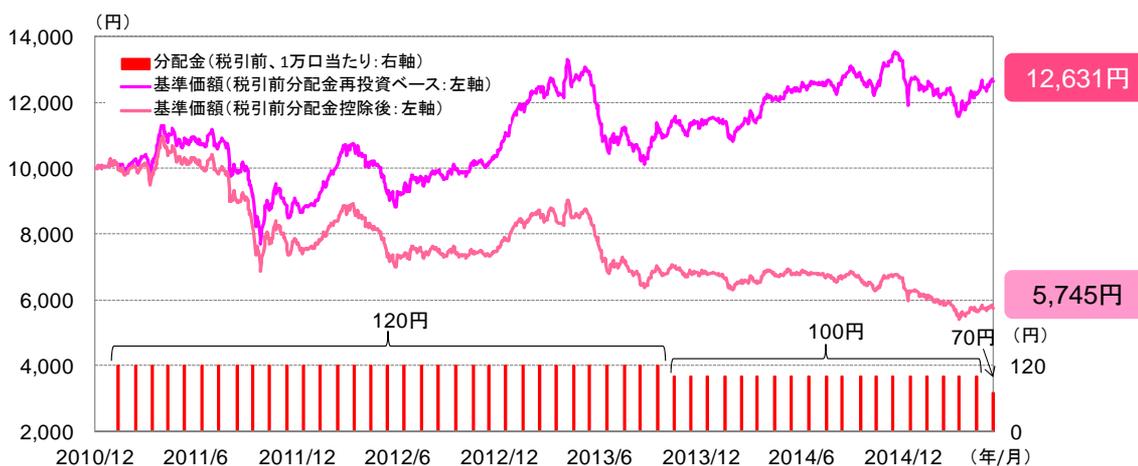


資源国3通貨コース

＜基準価額の騰落率＞

前月末比	-0.3%
3カ月前月末比	1.7%
6カ月前月末比	-2.2%
1年前月末比	3.9%
設定来	26.3%

※基準価額は税引前分配金再投資ベースを使用



ブラジルリアルコース

＜基準価額の騰落率＞

前月末比	-0.9%
3カ月前月末比	-6.4%
6カ月前月末比	-6.7%
1年前月末比	-3.4%
設定来	20.7%

※基準価額は税引前分配金再投資ベースを使用



※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。  
 ※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上のものであることにご留意ください。  
 ※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合があります。

上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・円コース／資源国3通貨コース／ブラジルリアルコース」および「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネープールファンド)」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

## 分配金引き下げの背景①

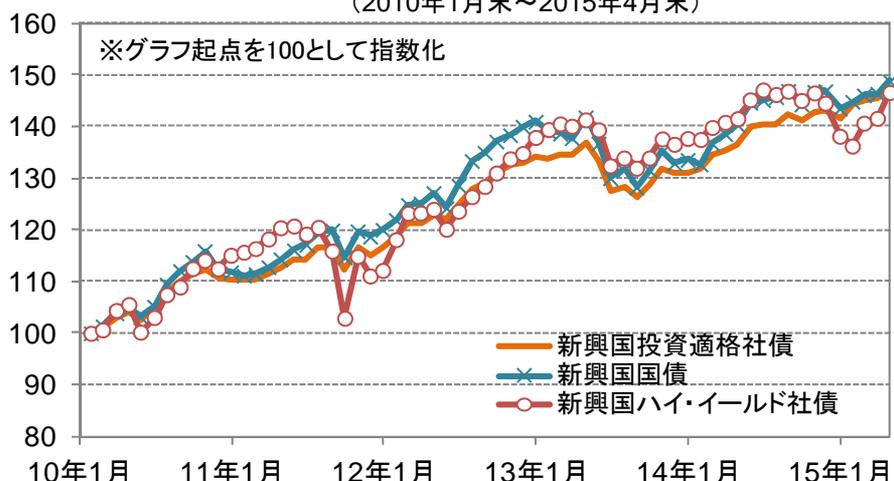
資源価格の下落や米国の利上げ観測などを背景に、当ファンドの投資対象である新興国ハイ・イールド社債および資源国3通貨(ブラジルリアル、南アフリカランド、オーストラリアドル)は、2014年後半以降不安定な推移となりました。これを受け、基準価額が下落したことなどから、ファンドのインカム水準や基準価額水準などに鑑みて、今後も安定した分配金のお支払いを継続することをめざすため、より保守的な金額に引き下げることにいたしました。

## 足元の新興国ハイ・イールド社債の状況について

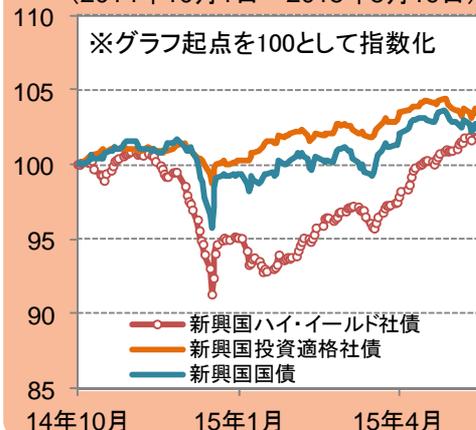
- ✓新興国ハイ・イールド社債は、資源価格の下落や世界景気減速懸念などを受けた投資家のリスク回避的姿勢の強まりを背景に、2014年11月以降不安定な推移となり、年末にかけて大きく下落する展開となりました。
- ✓2015年1月以降は、原油などの資源価格の下落は続いたものの、欧州中央銀行(ECB)が量的緩和策を強化し高利回り資産への需要が強まったことや、これまでの下落の反動などから新興国ハイ・イールド社債は上昇に転じ、原油価格が安定し始めた2月以降は上昇のスピードを加速させました。
- ✓セクター別でみると、資源価格が大きく下落したことを背景に、エネルギー関連銘柄が1月末にかけて大きく下落し、金属・鉱業セクターも軟調な展開となりました。また、中国の低格付の不動産セクターの下落も目立ちました。
- ✓国別でみると、ロシアは、ウクライナ情勢を巡る経済制裁による外貨調達への影響が懸念され大きく下落しました。また、ウクライナは、外貨準備高が低水準となっていることから、国そのものの債務履行能力への不安が拡がり、大きく下落しました。

### 一時的に軟調となったものの、足元で堅調な新興国ハイ・イールド社債

<主な新興国債券のリターンの推移(米ドル・ベース)>  
(2010年1月末~2015年4月末)



新興国ハイ・イールド社債は  
足元で堅調な推移に  
(2014年10月1日~2015年5月19日)



新興国ハイ・イールド社債: JP モルガンCEMBI ディバースィファイド・ノン・インベストメント・グレード(米ドル・ベース)  
 新興国投資適格社債: JP モルガンCEMBI ディバースィファイド・インベストメント・グレード(米ドル・ベース)  
 新興国国債: JP モルガンEMBI グローバル・ディバースィファイド(米ドル・ベース)  
 ※上記指数は、市況動向をご紹介するための参考指標であり、当ファンドのベンチマークではありません。

(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成)

上記コメントは、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「EMサブIGハイインカム・コーポンド・サブトラスト」を運用するブルーベイ・アセット・マネジメントからのコメントをもとに作成しています。

上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

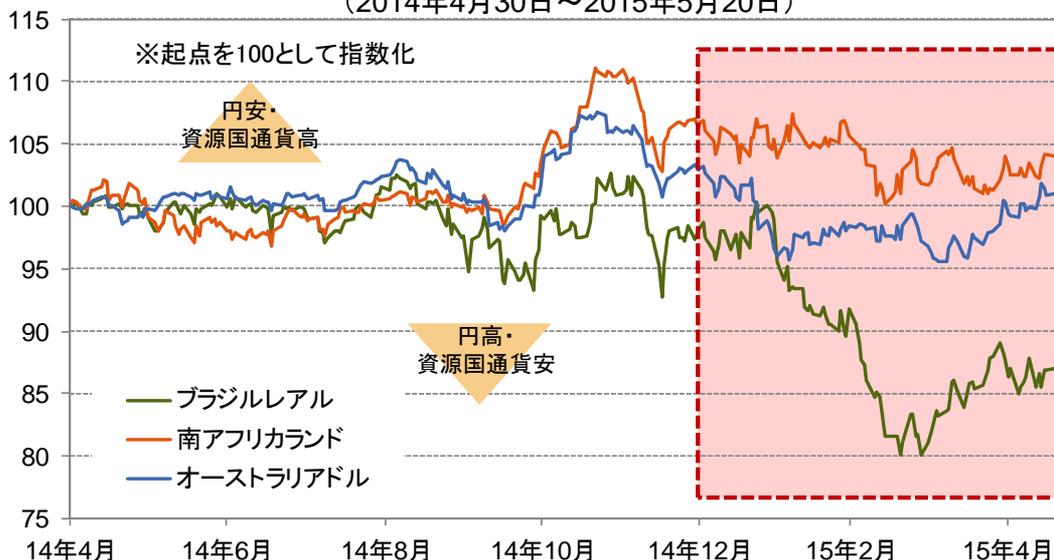
■当資料は、投資者の皆様様に「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・円コース/資源国3通貨コース/ブラジルリアルコース」および「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネープールファンド)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

分配金引き下げの背景②

足元の資源国3通貨の状況について

資源国3通貨(ブラジルレアル、南アフリカランド、オーストラリアドル)は、資源価格の下落などを背景に、2014年12月以降、対円で軟調な推移となりました。原油の純輸入国であるブラジル、南アフリカ、オーストラリアの経済にとって原油価格の下落はプラス要因となった一方、中国の景気減速などを背景に鉄鉱石、天然ガス、石炭などの3カ国の主要輸出資源の価格が下落したことは大きなマイナス要因となりました。また、米国の政策金利の引き上げ観測を受けた大きな流れとしての米ドル高傾向も通貨安の要因の1つになったとみています。

＜資源国3通貨の推移(対円)＞  
(2014年4月30日～2015年5月20日)



資源国3通貨の年初来騰落率  
2015年1月初～2015年5月20日

ブラジルレアル	-10.7%
南アフリカランド	-1.2%
オーストラリアドル	-2.5%

(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成)

ご参考:大きく下落した資源価格

＜資源価格の推移＞  
(2014年4月30日～2015年5月20日)



原油:WTI原油先物  
鉄鉱石:中国鉄鉱石62%スポット

(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成)

上記コメントは、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「EMサブIGハイインカム・コーポンド・サブトラスト」を運用するブルーベイ・アセット・マネジメントからのコメントをもとに作成しています。

上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様様に「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・円コース／資源国3通貨コース／ブラジルレアルコース」および「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネープールファンド)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

## 足元の資源国3通貨の状況について

## ブラジルリアル

ブラジルリアル(対円) : 40.42円 政策金利 : 13.25% (2015年5月20日現在)

2014年10月に再選を果たしたルセフ大統領が緊縮財政への改革路線を強めたことなどを背景に、ブラジルリアルは上昇する局面があったものの、2015年1月下旬以降、国内の景気低迷や国営石油会社に絡む汚職疑惑などを受け下落する展開となりました。その後は、3月の反政府デモなどの拡がりなどにより格下げ懸念が高まったことに加え、主要輸出相手国である中国の景気減速などから、ブラジルリアルは下げ足を速めました。しかしながら、3月下旬以降、大手格付会社が財政健全化に向けた取り組みを評価し、ブラジルの格付の据え置きを発表したほか、ルセフ大統領が財政目標達成に向けてあらゆる手段を講じるとの決意を示したことなどが好感され、ブラジルリアルは上昇に転じました。なお、ブラジルではインフレ率が物価目標の上限(6.5%)を上回っていることから、2014年10月以降、5会合連続で政策金利が上げられました。

## 南アフリカランド

南アフリカランド(対円) : 10.25円 政策金利 : 5.75% (2015年5月20日現在)

2014年12月以降、南アフリカランドは底堅い推移となりました。これまで通貨を下落させる要因となっていた鉱山労働者のストライキが終息に向かったことに加え、経済成長の悪化に歯止めがかかってきたとの見方が強まりました。また、これまでの通貨の下落による輸出競争力の改善、原油価格の下落による経常赤字とインフレ率の縮小への期待の高まりが背景とみられます。

## オーストラリアドル

オーストラリアドル(対円) : 95.56円 政策金利 : 2.00% (2015年5月20日現在)

中国の経済成長の減速とオーストラリアドル高による輸出の落込みに加え、資源価格の下落で経済の見通しが悪化したことから、2014年12月以降、オーストラリアドルは、軟調な展開となりました。その後、2015年2月に、同国の中央銀行が政策金利の引き下げに踏みきったことで、オーストラリアドルは下げ足を速める展開となりました。その後、5月にも政策金利は引き下げられました。

上記コメントは、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「EMサブIGハイインカム・コーポンド・サブトラスト」を運用するブルーベイ・アセット・マネジメントからのコメントをもとに作成しています。

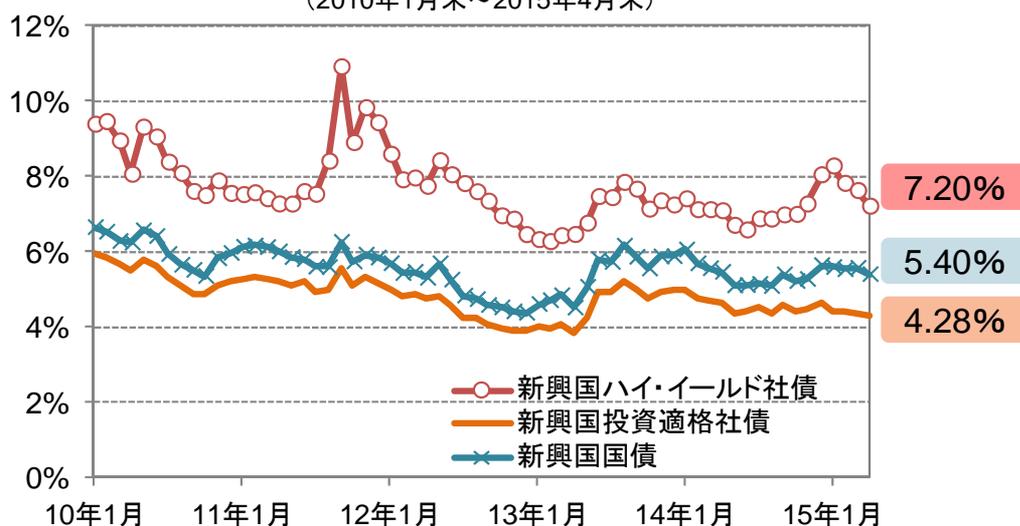
今後の見通しについて①

新興国ハイ・イールド社債について

- ✓2015年は、2014年と比較して政治的なイベントは多くないものの、ロシアとウクライナの問題、ブラジルの汚職疑惑などの政治リスクに大きく影響を受ける傾向は続くと考えられます。
- ✓また、2015年内に米国の政策金利が引き上げられるとみられることから、米国の金融政策や金利の動向が新興国社債市場に影響を与えると考えられます。しかしながら、米国の政策金利の引上げは、年内に0.25%~0.5%程度と緩やかなペースで進められると想定しており金利の上昇も緩やかな上昇に留まると考えられることから、新興国社債のパフォーマンスを大きく悪化させるものにはならないとみています。
- ✓足元で、ユーロ圏で実施されている量的緩和の影響により利回りへの需要が高まっていることから、新興国社債市場への資金流入の傾向が強まると期待しています。一方で、新興国資産への懸念が一時的に強まったことで、足元で社債の新規発行を避ける企業が多く、2015年の新興国社債市場の新規発行額は2014年よりも少なく、需給面では引き締まった状況になると考えています。
- ✓新興国企業のファンダメンタルズは先進国企業と比べて健全であると考えています。多くの新興国企業は、欧米の低金利を背景に借り換えを実施していることに加え、手元に潤沢な資金を確保する企業もみられるなど、デフォルト率が急上昇する環境にはないとみています。ただし、エネルギー関連企業については、資源価格の中長期的な低迷を背景にデフォルトが増える可能性はあります。また、ウクライナやロシアの企業や国の不動産企業については一部注意が必要と考えられます。

相対的に高い利回り水準

＜主な新興国債券の利回り水準＞  
(2010年1月末～2015年4月末)



新興国ハイ・イールド社債: JP モルガンCEMBI ディバーシファイド・ノン・インベストメント・グレード(米ドル・ベース)

新興国投資適格社債: JP モルガンCEMBI ディバーシファイド・インベストメント・グレード(米ドル・ベース)

新興国国債: JP モルガンEMBI グローバル・ディバーシファイド(米ドル・ベース)

※上記指数は、市況動向をご紹介するための参考指標であり、当ファンドのベンチマークではありません。

(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成)

上記コメントは、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「EMサブIGハイインカム・コーポンド・サブトラスト」を運用するブルーベイ・アセット・マネジメントからのコメントをもとに作成しています。

上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・円コース/資源国3通貨コース/ブラジルリアルコース」および「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネープールファンド)」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

## 今後の見通しについて②

### 資源国3通貨について

資源国3通貨の今後の見通しを考える上で、重要なポイントとなるのは資源価格の動向です。中国景気が減速傾向となっていることなどから資源価格の低迷は中期的に続くと思われるものの、2014年後半から2015年初めのような価格の大幅な下落が繰り返される可能性は低いと考えています。また、原油の純輸入国であるブラジル、南アフリカ、オーストラリアの経済にとって原油価格の下落は経済にプラスとなることに加え、これまでの通貨の大幅な下落によって企業の輸出競争力は高まっているとみられることから、資源価格下落の資源国3通貨へのマイナスの影響は少し和らいでくるとみられます。

一方で、米国の政策金利引き上げが2015年内に行なわれるとみられることから、米ドル高傾向は続くこととみており、注視する必要があると考えています。しかし、米国の政策金利の引上げは緩やかなペースで進められ、金利の上昇も限定的なものになるとみられることから、資源国3通貨への影響は大きくならないとみています。

#### ブラジルリアル

足元で、ブラジルは国内経済の低迷や財政赤字の拡大などの問題を抱えていることに加え、国営石油会社に絡む汚職疑惑捜査が長引くなど、悪材料が多く残る状況です。今後、同国の政治的混乱がさらに高まるようであれば、一層のファンダメンタルズの悪化によるブラジルリアルへの影響に注視する必要があるとみています。しかしながら、ブラジルリアルは、これまでの下落により、足元の悪材料を既に織り込んでいるとみられるうえ、インフレ抑制に向けて中央銀行が政策金利の引上げを続けており、同国の金利が相対的に高い水準にあることはブラジルリアルのサポート要因になると考えられます。また、今後、財政健全化に向けた取り組みが実際に推し進められ、同国への信頼が改善するようであれば、中長期的に、ブラジルリアルの押し上げに寄与すると期待されます。

#### 南アフリカランド

南アフリカは、高いインフレ率や経常赤字、経済成長の低迷などの問題を抱えています。しかしながら、原油価格の下落により、足元のインフレ圧力が弱まっていることに加え、経常赤字が改善傾向となるなど最悪期は脱したとみており、今後も南アフリカランドの底堅い推移が期待されます。また、2014年10-12月期のGDP成長率は予想を上回る改善となるなど、景気の先行きに明るさが見え始めていることも、南アフリカランドのサポート要因になるとみられます。

#### オーストラリアドル

主要輸出相手国である中国の景気減速や資源価格の低迷などを背景に、オーストラリアの経済成長は鈍化傾向となっています。また、オーストラリア準備銀行の総裁が通貨高をけん制するような発言をするなど通貨安を志向する姿勢を強めていることなどから、オーストラリアドルは、短期的には上値の重い展開となる可能性があると考えています。

上記コメントは、当ファンドの主要投資対象である外国投資信託「EMサブIGハイインカム・コーポンド・サブトラスト」を運用するブルーベイ・アセット・マネジメントからのコメントをもとに作成しています。

【収益分配金に関する留意事項】

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

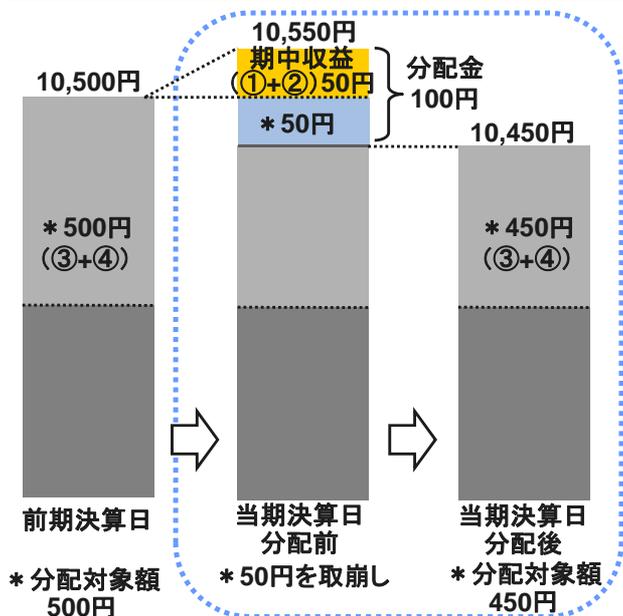
投資信託で分配金が支払われるイメージ



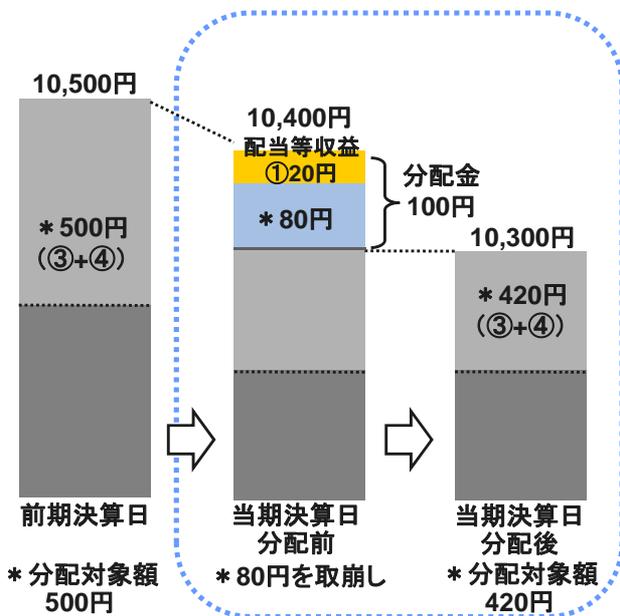
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



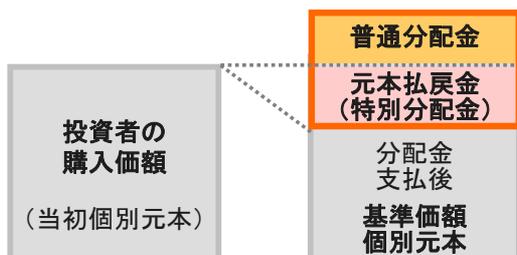
前期決算から基準価額が下落した場合



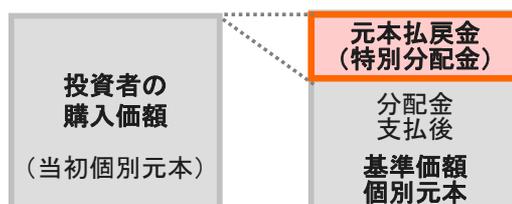
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。  
 ※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



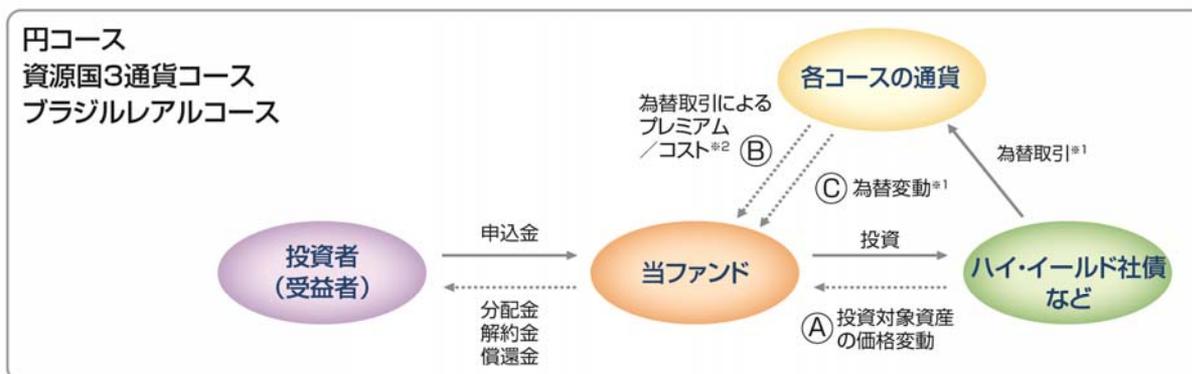
※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。  
 元本払戻金 : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、(特別分配金) 元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

## 通貨選択型ファンドの収益に関する留意事項

- 通貨選択型の投資信託は、投資対象資産(株式や債券など)の運用に加えて、為替取引による通貨の運用も行っており、為替取引の対象となる通貨を選択することができます。

通貨選択型の投資信託のイメージ図



※1 円コースは、原則として為替ヘッジを行ない、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。各コースの通貨が円以外の場合には、各コースの通貨と円の為替変動リスクがあります。

※2 為替取引によるプレミアム/コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益/費用です。

- 通貨選択型の投資信託の収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。なお、収益源である3つの要素にはリスクが内在しています。詳しくは、「リスク情報」をご覧ください。

収益の源泉		=	(A) 債券の値上がり/値下がり	+	(B) 為替ヘッジプレミアム/コスト	+	(C) 為替差益/差損
円コース	収益を得られるケース		債券価格の上昇		ヘッジプレミアムの発生 円の金利 - 原資産通貨の加重平均金利が <b>プラス</b>		原則として 為替ヘッジを行ない、 為替変動リスクの 低減を図ります。
	損失やコストが発生するケース		債券価格の下落		ヘッジコストの発生 円の金利 - 原資産通貨の加重平均金利が <b>マイナス</b>		
資源国3通貨コース ブラジルリアルコース	収益を得られるケース		債券価格の上昇		プレミアム(金利差相当分の収益)の発生 各コースの通貨の金利* - 原資産通貨の加重平均金利が <b>プラス</b>		為替差益の発生 各コースの通貨に対して <b>円安</b>
	損失やコストが発生するケース		債券価格の下落		コスト(金利差相当分の費用)の発生 各コースの通貨の金利* - 原資産通貨の加重平均金利が <b>マイナス</b>		為替差損の発生 各コースの通貨に対して <b>円高</b>

\*資源国3通貨コースは、3通貨の短期金利の平均値です。

※市況動向によっては、上記の通りにならない場合があります。

## 通貨運用に関する留意事項

- 各通貨の運用に当たっては、直物為替先渡取引(NDF取引)を活用する場合があります。
- NDF取引とは、投資対象通貨を用いた受渡を行わず、主に米ドル等による差金決済のみを行なう取引のことを言います。
- NDF取引では、需給や規制などの影響により、為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)/コスト(金利差相当分の費用)が、短期金利から算出される理論上の水準から乖離する場合があります。そのため、想定している投資成果が得られない可能性があります。

※為替取引には、為替ヘッジ(米ドルを売り、円を買う取引)が含まれています。為替ヘッジの場合、「為替取引によるプレミアム/コスト」を「為替ヘッジプレミアム/コスト」といいます。

## ファンドの特色

## エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド

・円コース ・資源国3通貨コース ・ブラジルリアルコース

## 1. 主として、新興国のハイ・イールド社債に投資します。

- ・当ファンドは、ブルーベイ・アセット・マネジメントが運用する外国投資信託「EMサブ I Gハイインカム・コーポンド・サブトラスト」の各クラスを通じて実質的に新興国のハイ・イールド社債に投資します(\*)。
- ※上記の外国投資信託は、30%を上限に新興国の投資適格社債にも投資します。

## 2. 為替変動リスクの異なる3つのコースをご用意しました。

- ・「円コース」「資源国3通貨コース」「ブラジルリアルコース」の3つからお選びいただけます。
- ・上記3コース間および「マネープールファンド」の間でスイッチングが可能です。
- ※「資源国3通貨コース」は、ブラジルリアル、南アフリカランド、オーストラリアドルで、原則として均等に投資します。

## 3. 原則として、毎月、安定した収益分配を行なうことをめざします。

- ・利子収入や値上がり益などを原資として、毎決算時に安定した収益分配を行なうことをめざします。
- ・毎月20日（休業日の場合は翌営業日）を決算日とします。
- ※「原則として、安定した分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移することなどを示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況などによっては安定した分配とならない場合があることにご留意ください。
- ※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

## ファンドの特色

## エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネープールファンド)

「マネー・アカウント・マザーファンド」ならびにわが国の国債および格付の高い公社債などに投資を行ない、安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。

- ・主に、「マネー・アカウント・マザーファンド」ならびにわが国の国債および格付の高い公社債に投資を行ない、毎年2月と8月の各20日（休業日の場合は翌営業日）の決算時に、収益分配方針に基づいて分配を行なうことをめざします。
- ※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。
- ※「マネープールファンド」はスイッチング専用のファンドであり、直接購入いただくことはできません。

市況動向および資金動向などにより、上記のような運用ができない場合があります。

■当資料は、投資者の皆様へ「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・円コース／資源国3通貨コース／ブラジルリアルコース」および「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネープールファンド)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

## お申込みに際しての留意事項

### ●リスク情報

【円コース】

【資源国3通貨コース】

【ブラジルリアルコース】

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様にご帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

#### 【価格変動リスク】

- ・公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。
- ・新興国の債券は、先進国の債券に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

#### 【流動性リスク】

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- ・新興国の債券は、先進国の債券に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

#### 【信用リスク】

- ・公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。
- ・一般にハイイールド債券は、上位に格付された債券と比較して、利回りが高い反面、価格変動が大きく、デフォルトが生じる可能性が高いと考えられます。
- ・新興国の債券は、先進国の債券に比べて利回りが高い反面、価格変動が大きく、デフォルトが生じるリスクが高まる場合があります。

(次ページへ続きます)

(前ページより続きます)

### 【為替変動リスク】

#### ◆円コース

- ・投資対象とする外国投資信託の組入資産については、原則として為替ヘッジを行ない、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジを行なうにあたっては、円の金利が米ドルの金利より低い場合、この金利差に相当するヘッジコストが発生します。為替および金利の動向によっては、為替ヘッジに伴うヘッジコストが予想以上に発生する場合があります。
- ・投資対象とする外国投資信託において米ドル建て以外の債券を組入れた場合は、実質的に米ドル建てとなるよう為替取引を行なった上で、円で為替ヘッジ(対米ドル)を行ないます。

#### ◆資源国3通貨コース

- ・投資対象とする外国投資信託の組入資産については、実質的に米ドル売り、資源国通貨(ブラジルレアル、南アフリカランド、オーストラリアドルの3通貨)買いの為替取引を行なうため、資源国通貨の対円での為替変動の影響を受けます。一般に外国為替相場が資源国通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。なお、為替取引を完全に行なうことができるとは限らないため、場合によっては資源国通貨と米ドルの金利差を十分に享受することができない可能性や、米ドルの対円での為替変動の影響を受ける可能性があります。また、資源国通貨の金利が米ドル金利より低い場合、米ドルと資源国通貨の金利差相当分の為替取引によるコストが発生します。
- ・投資対象とする外国投資信託において米ドル建て以外の債券を組入れた場合は、実質的に米ドル建てとなるよう為替取引を行なった上で、資源国通貨で為替取引(対米ドル)を行ないます。
- ・一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

#### ◆ブラジルレアルコース

- ・投資対象とする外国投資信託の組入資産については、実質的に米ドル売り、ブラジルレアル買いの為替取引を行なうため、ブラジルレアルの対円での為替変動の影響を受けます。一般に外国為替相場がブラジルレアルに対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。なお、為替取引を完全に行なうことができるとは限らないため、場合によってはブラジルレアルと米ドルの2通貨間の金利差を十分に享受することができない可能性や、米ドルの対円での為替変動の影響を受ける可能性があります。また、ブラジルレアルの金利が米ドル金利より低い場合、米ドルとブラジルレアルの金利差相当分の為替取引によるコストが発生します。
- ・投資対象とする外国投資信託において米ドル建て以外の債券を組入れた場合は、実質的に米ドル建てとなるよう為替取引を行なった上で、ブラジルレアルで為替取引(対米ドル)を行ないます。
- ・一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

### 【カントリー・リスク】

- ・投資対象国における非常事態など(金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

### 【デリバティブリスク】

- ・金融契約に基づくデリバティブとよばれる金融派生商品を用いることがあり、その価値は基礎となる原資産価値などに依存し、またそれらによって変動します。デリバティブの価値は、種類によっては、基礎となる原資産の価値以上に変動することがあります。また、取引相手の倒産などにより、当初の契約通りの取引を実行できず損失を被るリスク、取引を決済する場合に反対売買ができなくなるリスク、理論価格よりも大幅に不利な条件でしか反対売買ができなくなるリスクなどがあります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

(次ページへ続きます)

(前ページより続きます)

### 【マネープールファンド】

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

### 【価格変動リスク】

・公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

### 【流動性リスク】

・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

### 【信用リスク】

・公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

## その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様へ「エマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・円コース／・資源国3通貨コース／・ブラジルリアルコース／(マネープールファンド)」へのご理解を高めさせていただくことを目的として日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様へ帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。

■お申込メモ

【各通貨コース】はエマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンドの各通貨コースの内容、【マネープール】はエマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネープールファンド)の内容です。記載のない項目は共通の内容となります。

商品分類	【各通貨コース】追加型投信／海外／債券 【マネープール】追加型投信／国内／債券
ご購入単位	購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
ご購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
ご購入不可日	【各通貨コース】 購入申込日がロンドンの銀行休業日、ニューヨークの銀行休業日、12月24日のいずれかに当たる場合は、購入のお申込みの受付(スイッチングを含みます。)は行ないません。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※マネープール スイッチングを伴う購入の申込みについて、スイッチング対象である各通貨コースの換金不可日には受付を行ないません。
信託期間	2020年8月20日まで(2010年12月9日設定)
決算日	【各通貨コース】毎月20日(休業日の場合は翌営業日) 【マネープール】毎年2月20日、8月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	【各通貨コース】 毎決算時に、分配金額は、委託会社が決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に 行なうことをめざします。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 ※「原則として、安定した分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定した ものになることや基準価額が安定的に推移することなどを示唆するものではありません。また、 基準価額の水準、運用の状況などによっては安定した分配とならない場合があることにご留意 ください。 【マネープール】 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
ご換金価額	換金請求受付日の翌営業日の基準価額
ご換金不可日	【各通貨コース】 換金請求日がロンドンの銀行休業日、ニューヨークの銀行休業日、12月24日のいずれかに当 たる場合は、換金請求の受付(スイッチングを含みます。)は行ないません。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※マネープール スイッチングを伴う換金の申込みについて、スイッチング対象である各通貨コースの購入 不可日には受付を行ないません。 * スwitchングを伴わない換金の申込みについては、販売会社の営業日に受付を行ないます。
ご換金代金のお支払い	原則として、換金請求受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

## 手数料等の概要

【各通貨コース】はエマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンドの各通貨コースの内容、【マネープール】はエマージング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネープールファンド)の内容です。記載のない項目は共通の内容となります。

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

### <お申込時、ご換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	<p>【各通貨コース】 購入時手数料率(スイッチングの際の購入時手数料率を含みます。)は、<u>3.78%(税抜3.5%)</u>を上限として販売会社が定める率とします。 ※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。</p> <p>《ご参考》 (金額指定で購入する場合) 購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額(お支払いいただく金額)となるよう購入口数を計算します。 例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料(税込)をいただきますので、100万円全額が当ファンドの購入金額とはなりません。</p> <p>(口数指定で購入する場合) 例えば、基準価額10,000円のときに、購入時手数料率3.78%(税込)で、100万口ご購入いただく場合は、次のように計算します。 購入金額 = (10,000円 / 1万口) × 100万口 = 100万円、 購入時手数料 = 購入金額(100万円) × 3.78%(税込) = 37,800円となり、 購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万7,800円をお支払いいただくこととなります。</p> <p>【マネープール】 ありません。 ※マネープールはスイッチング以外の購入はできません。</p>
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングが行なえない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

### <信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

信託報酬	<p>【各通貨コース】 純資産総額に対して年率1.8324%(税抜1.75%)程度を乗じて得た額が実質的な信託報酬となります。</p> <p>信託報酬の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.1124%(税抜1.03%)、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.72%程度となります。受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。</p> <p>【マネープール】 純資産総額に対して年率0.594%(税抜0.55%)以内を乗じて得た額となります。</p>
その他費用	<p>目論見書などの作成・交付にかかる費用および監査費用などについては、<u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額</u>が信託財産から支払われます。組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。</p> <p>※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。</p>

※当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 日本証券業協会
受託会社	三井住友信託銀行株式会社 (再信託受託会社:日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]http://www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申し込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○	○	○	○

(50音順・資料作成日現在)